

13 番の歌 キリストは私たちの手本

バプテスマの後もイエスに従い続ける

「誰でも私に付いてきたいと思うなら、自分を捨て、日々苦しみの杭を持ち上げ、絶えず私の後に従いなさい」。ルカ 9:23

ポイント：この記事は、エホバに献身することが自分の生き方にどう関係しているかを考える上で役立ちます。特に、最近バプテスマを受けた人がエホバに仕え続ける上で助けになるでしょう

1-2. バプテスマを受けるなら、どんな人生を送りますか。

バプテスマを受けてエホバの家族の一員になれるのはとても幸せなことです。エホバとの素晴らしい絆を持つことができるからです。詩編作者ダビデも次のように言いました。「幸せです、[エホバ]に選ばれて近くに招かれ、[エホバ]の庭に住む人は」。（詩 65:4 幸せです、あなたに選ばれて近くに招かれ、あなたの庭に住む人は。私たちはあなたの家の良いものに満足します。あなたの聖なる神殿(*聖なる所)で）

2 エホバは、ご自分の庭に入ることを誰にでも許しているわけではありません。前の記事で学んだ通り、エホバはご自分に近づこうとする人を引き寄せます。（ヤコ 4:8 神に近づいてください。そうすれば、神は近づいてください。罪人たち、手を清めてください。優柔不断な人たち、心を清めてください）エホバに献身してバプテスマを受けるなら、エホバと特別な友情を築くことになります。エホバは必ず「あふれるほどに祝福を注」いでくださるでしょう。（マラ 3:10 10 分の 1 全部を倉庫に持ってきて、私の家に食物があるようにしなさい。私があなたたちのために天の水門を開いて、あふれるほどに祝福を注ぐかどうか、私を試してほしい」と、大軍を率いるエホバは言う。エレ 17:7, 8 エホバに頼る人(*強い人)、エホバを信頼する人は祝福される。8 その人は水辺に植えられた木のようになる。流れに向かって根を伸ばす木のように。暑さが来ても気にせず、常に葉が青々と茂る。干ばつの年にも心配せず、実を結ぶのをやめない）

3. 献身してバプテスマを受けたクリスチャンにはどんな大切な責任がありますか。（伝道の書 5:4, 5）

3 バプテスマはゴールではなく、スタートラインにすぎません。バプテスマを受けた後は、試練や誘惑に遭ったとしても、エホバに仕え続けるという献身の誓いを守るためにベストを尽くしたいと思うことでしょう。（伝道の書 5:4, 5 神に誓約したなら、先延ばしせずに果たせ。愚かな人は喜ばれないからだ。誓約は果たせ。5 誓約して果たさないよりは、誓約しない方がよいを読む。）イエスの弟子として、イエスの手本に倣い、その教えに従うよう努力します。（マタ 28:19, 20 それで、行って、全ての国の人々を弟子としなさい。父と子と聖なる力の名によってバプテスマを施し、20 私が命令した事柄全てを守るよう教えなさい。私は体制の終結までいつの日もあなたたちと共にいるのです。ペテ 2:21 皆さんはこうした道

に招かれました。キリストでさえ皆さんのために苦しみ、その歩みに皆さんがしっかりと付いてくるよう手本を示しました) この記事では、そうする上で役立つ点を学びます。

試練や誘惑があってもイエスに従い続ける

4. イエスの弟子たちが「苦しみの杭」を負うとはどういう意味ですか。 (ルカ 9:23)

4 バプテスマを受けたからといって、いろいろな問題を経験しなくなるわけではありません。イエスは弟子たちに、「苦しみの杭」を「日々」負うことになる、とはっきり言いました。 (ルカ 9:23) イエスはさらに皆に言った。「誰でも私に付いてきたいと思うなら、自分を捨て、日々苦しみの杭を持ち上げ、絶えず私の後に従いなさいを読む。) これは、イエスに従うといつも苦しまなければいけない、ということでしょうか。そうではありません。イエスは、幸せな生き方ができるとはいえ問題を抱えずに済むわけではない、ということを強調していました。大変な試練を経験することさえあります。 (テモニ 3:12 神への専心を貫き、キリスト・イエスに従って生きようとする人は皆、同じように迫害を受けます)

5. イエスは、犠牲を払う人にどんなことを約束しましたか。

5 もしかすると、あなたも家族に反対されたり、生活の中で王国を第一にするためにお金や物を犠牲にしたりしてきたかもしれません。 (マタ 6:33 ですから、王国と神から見て正しいことをいつも第一にしなさい。そうすれば、こうしたほかのもの全ても、あなたたちに与えられます) エホバは、これまであなたがエホバのためにしてきたことを全部見ていて覚えてくださっています。 (ヘブ 6:10 皆さんはこれまでずっと聖なる人たちに仕え、今も仕え続けています。そのようにして、神の名を愛していることを示していました。神は不公正な方ではないので、そうした働きや愛を忘れたりはされません) イエスはこう言いました。「私のため、また良い知らせのために、家、兄弟、姉妹、母親、父親、子供、あるいは畑に別れを告げた人は皆、今この時期に(*現在)百倍を、家、兄弟、姉妹、母親、子供、畑を迫害と共に得て、新しい体制で永遠の命を得ます」。あなたもこの言葉の通りのことを経験してきたかもしれません。 (←マル 10:29, 30) 確かに、エホバが与えてくださる良いものは、私たちが犠牲にするどんなものよりもはるかに素晴らしいといえます。 (詩 37:4 エホバに仕えるのは最高の喜び(*エホバを最高の喜びとせよ)。神はあなたの心の願いをかなえてくださる)

6. バプテスマを受けた後も「罪深い欲望」と闘い続ける必要があるのはどうしてですか。

6 バプテスマを受けた後も、「罪深い欲望」と闘い続ける必要があります。 (ヨハ一 2:16 世の中のもの、すなわち罪深い(d*肉体の)欲望、見ることから生じる(d*目の)欲望、持ち物を見せびらかすことは皆、父からのものではなく、世から出るものだからです) アダムから罪を受け継いでいるからです。あなたも、次のように語った使徒パウロと同じような気持ちになることがあるかもしれません。「私は、内面では神の律法を本当に喜んでいます。しかし、体の中で別の律法が、考えを導く律法と戦い、私を捕らえて体の中にある罪の律法に従わせているのが分かります」。 (ロマ 7:22, 23 私は、内面では(*内面の人としては)神の律法を本当に喜んでいます。23 しかし、体の中で別の律法が、考えを導く律法と戦い、私を捕らえて体の中にある罪の律法に従わせているのが分かります) 間違ったことをしたくなる自分にがっ

かりすることもあるでしょう。でも、献身した時にエホバにした約束について考えるなら、誘惑に立ち向かう助けになります。

7. 献身することは、エホバに忠実に仕え続ける上でどのように助けになりますか。

7 エホバに献身すると、自分を捨てることになります。つまり、間違った欲求を満たそうしたり、エホバを悲しませるようなことをしたりしないということです。 (マタ 16:24 それからイエスは弟子たちに言った。 「誰でも私に付いてきたいと思うなら、自分を捨て、苦しみの杭を持ち上げ、絶えず私の後に従いなさい）誘惑に遭った時、どうしようかと迷うことはありません。エホバを喜ばせ、忠実に仕え続けることを心に決めているからです。それで、たとえ難しい試練に遭ったとしても、「私は……忠誠を貫く！」と言ったヨブと同じ決意を保つことができます。 (ヨブ 27:5 あなた方を正しいと認めるなど私には考えられない！私は死ぬまで忠誠を貫く(*忠誠心を捨てない！))

8. 献身した時の祈りを思い返すことは、良くない考えをはねのけるのにどのように助けになりますか。

8 献身した時にエホバに捧げた祈りを思い返すことは、良くない考えをはねのける力になります。例えば、結婚している誰かのことが気になってしまったらどうしますか。その気持ちをそのままにしたり、相手の気を引こうしたりはしないはずです。エホバを悲しませるようなことはしない、と約束したからです。欲望が膨らんでからではなく、最初からきっぱり退けるならつらい思いをせずに済みます。 「悪人が通る道」から「離れ」ことができるのです。 (格 4:14, 15 悪人が通る道に入ってはならない。 悪い人の道を歩いてはならない。 15 それを避けよ。足を踏み入れてはならない。 それから離れ、通り過ぎよ)

9. 献身した時の祈りについてじっくり考えることは、生活の中でエホバを崇拝することを第一にする上で、どのように助けになりますか。

9 もし、集会に定期的に出席するのが難しくなるような仕事の話が来たらどうしますか。きっと迷うことはないでしょう。そうした話が来るよりもずっと前に、集会に行けなくなるような仕事は受け入れたりしない、と心に決めているからです。それで、良くない決定をしてもなんとかうまくいくのではないか、と考えたりはしないでしょう。この点でイエスの手本についてじっくり考えることは助けになります。イエスは、エホバに喜ばれることをしようと決意していました。私たちも、エホバに献身したことを考えるなら、エホバを悲しませるようなことはどんなことであれきっぱり退けることができます。 (マタ 4:10 その時、イエスは言った。 「離れ去れ、サタン！ 『あなたが崇拝すべきなのはエホバ神であり、この方だけに神聖な奉仕をしなければならない』と書いてあるのです」。 ヨハ 8:29 そして、私を遣わした方は共にいてくださり、私を独りだけにはしませんでした。私は常に、その方が喜ぶことを行うからです)

10. バプテスマの後もイエスに従い続けられるよう、エホバはどのように助けてくださいますか。

10 試練や誘惑に遭う時、それは「絶えず[イエス]の後に従い」たいと思っていることを証明するチャンスになります。エホバは頑張る私たちのことを必ず助けてくださいます。聖書にはこうあります。 「神は信頼できる方で、皆さんが耐えられないほど誘惑を受けるままにはしません。出

口を設けて、誘惑に耐え切れるようにしてくださいます」。（[コリー 10:13](#) 皆さんに受けた誘惑は、多くの人が同じように経験してきた誘惑です。神は信頼できる方で、皆さんに耐えられないほど誘惑を受けるままにはしません。出口を設けて、誘惑に耐え切れるようにしてくださいます）

イエスに従い続けるには

11. イエスに従い続けるためにはどんなことが大切ですか。（写真も参照。）

11 イエスはエホバに心から仕え、いつでも祈りによってエホバに近づきました。（[ルカ 6:12](#) こうしたある日のこと、イエスは祈りをするため山に出ていき、夜通し神に祈った）私たちもエホバとの絆を深める習慣を守るなら、バプテスマの後もイエスに従い続けることができます。聖書にはこう書かれています。「私たちはこれまで進歩してきたのですから、この同じ道をきちんと歩んでいきましょう」。（←[フィリ 3:16](#) 時には、エホバにもっと仕えようと努力している兄弟姉妹の話を聞くことがあるかもしれません。王国福音伝道者のための学校に出席した人や、さらに伝道者が必要な区域に移動した人たちの話です。もし同じような目標を立てられるなら、それは素晴らしいことです。私たちはみんな、もっと宣教を行いたいという熱意にあふれています。（[使徒 16:9](#) パウロは夜に幻を見た。マケドニアの男性が立っていて、「マケドニアへ渡ってきて私たちを助けてください」と頼むのだった）でも、今はそうできないとしたらどうでしょうか。そのような人たちと比べて、自分は劣っているなどと考えないでください。クリスチャンの競走で大切なのは、最後まで走り続けることです。（[マタ 10:22](#) そしてあなたたちは、私の名のために全ての人から憎まれますが、終わりまで耐え忍んだ人が救われます）エホバが喜ばれるのは、あなたが自分の状況でできる限りのことをして、精いっぱいエホバにお仕えすることです。それがバプテスマの後もイエスに従い続ける上で大切です。（[詩 26:1](#) エホバ、私を裁いてください。私は高潔さを捨てずに歩んでいます。揺らぐことなくエホバに頼りました）



バプテスマの後も、エホバとの絆を強めるのに役立つ目標を持ちましょう。（11節を参照。）

12-13. 喜びや熱意が弱くなっているように感じたなら、どんなことができますか。（[コリント第一 9:16, 17](#)）（「最後まで走り続けるために」の囲みも参照。）

12 自分の祈りに心がこもっていないとか、宣教がマンネリ化しているとか、聖書通読を前ほど楽しめていない、と感じる場合はどうでしょうか。バプテスマを受けた後にそうした気持ちになる

としても、今の自分はエホバの聖なる力を受けることができないとは考えないでください。私たちは完全ではないので、気持ちの浮き沈みを経験することがあります。熱意が冷めているようを感じる時には、パウロの例を考えてみてください。パウロはイエスに倣おうと努力していましたが、なかなかやる気が出ないこともあります。（コリント第一 9:16, 17 私が良い知らせを広めていることは、誇る理由にはなりません。私に与えられた任務だからです。もし良い知らせを広めないなら、それは私にとって悲惨なことです！17 その任務を進んで果たすなら、私は報いを得ます。しかし、たとえ自分の意志に反して果たすとしても、管理人としての責任があることに変わりはありませんを読む。）それでも、「たとえ自分の意志に反して果たすとしても、管理人としての責任があることに変わりはありません」と言っています。パウロは、意欲が湧かない時にも自分の務めを果たそうと心に決めていたのです。

13 私たちも、自分の感情に振り回されないようにしましょう。気持ちが乗らない時にも正しいことを行うと決意してください。（気持ちが乗っていなくともできる聖書研究作業をする）努力を続けるなら、やがて意欲が湧いてくるかもしれません。それまで、信仰を強める良い習慣を守りましょう。そうするなら、バプテスマを受けた後もずっとイエスに従い続ける助けになります。あなたが粘り強く努力を続ける姿は、仲間の兄弟姉妹にとって大きな励みになるに違いありません。（テサ一 5:11 それで、すでにしている通り、これからも励まし(*慰め)合い、力づけ合ってください）

最後まで走り続けるために

ランナーはレースを走り切るために、日頃から健康に気を配ります。同じように、バプテスマを受けた後もエホバに仕え続けるためには、エホバとの強い絆を守る必要があります。



「いつも確かめ……いつも調べてください」

14. 私たちはいつもどんなことを確かめる必要がありますか。それが大切なのはどうしてですか。（コリント第二 13:5）

14 バプテスマの後も定期的に自分自身を調べることは大切です。（コリント第二 13:5 自分がクリスチャンの信条の通りに生きているかどうか、いつも確かめてください。自分がどんな人かをいつも調べてください。皆さんは、イエス・キリストと結ばれていることが分かっていないのですか。もちろん、皆さんが退けられていなければのことですがを読む。）祈りや聖書の通読や研究、集会への出席、宣教への参加などの習慣を時々見直してみるといいでしょう。こうした活動をもっと楽しむ方法を探しましょう。次のように考えてみることができます。「聖書の基本的な教えを説明できるだろうか。どうすれば宣教をもっと楽しめるだろうか。どれほど具体的に祈っているだろうか。私の祈りにはエホバを心から信頼していることが表れているだろうか。集会に定期的に出席しているだろうか。どうすればもっと集会のプログラムに集中し、良いコメントができるだろうか」。

15-16. ロバート兄弟の経験からどんなことを学べますか。

15 自分がどんな弱さを持っているかを知ることも大切です。ロバート兄弟の例を考えてみましょう。兄弟は自分が経験したことについてこう言っています。「20歳の頃、パートタイムで働いていました。ある日、仕事が終わった後、同僚の女性から家に来るよう誘われました。その女性は『2人だけで“夜”を過ごそうよ』と言いました。最初は遠回しにしか断れませんでしたが、最終的には理由を説明してきちんと断ることができました」。ロバート兄弟が誘惑に抵抗したのは立派なことです。でも、後で兄弟はこの出来事について振り返り、もっと上手に対処できたことに気付きました。兄弟はこう言っています。「ヨセフがポテパルの妻からの誘惑に抵抗した時のように、はっきりと、そしてすぐに退けるべきでした。（創 39:7-9 こうしたことの後、主人の妻がヨセフに目を留め、「私と寝て」と言うようになった。8 しかしヨセフは拒み、主人の妻に言った。「ご主人さまは、家の中のことを私に任せ、全く心配しておられません。全てのものを私に委ねてくださっています。9 この家に私の上に立つ人はいません。ご主人さまが私に下さらないものはありません。でもあなたは別です。奥さまだからです。そのような非常に悪いことをして、神に対して罪を犯すことなど、どうしてできるでしょうか」）断るのがこんなに大変だとは思いませんでした。この経験を通して、エホバとの絆をもっと強める必要があることに気付きました」。

16 私たちもロバート兄弟のように自分を分析してみることができます。誘惑に抵抗できた場合にも、「はっきり断るまでに時間がかかっただろうか」と考えてみましょう。改善点が見つかったとしても、がっかりしないでください。自分の弱さに気付けたのは良いことです。そのことについて祈り、エホバに従いたいという気持ちを強められるよう、できることを行いましょう。（詩 139:23, 24 神よ、私の全てを探り、私の心を知ってください。私を調べ、不安な気持ちを知ってください。24 私に何か良くないところがないかどうかを見て、永遠の命に導いてください）

17. ロバート兄弟の行動は、どのようにエホバの評判を守る結果になりましたか。

17 ロバート兄弟の話には続きがあります。兄弟はこう言っています。「私が誘いを断った後、女性は『よく引っ掛からなかったわね』と言いました。どういう意味か尋ねると、エホバの証人だった友達から、エホバの証人の若者はみんな裏表があるから、チャンスがあれば悪いことをするはずだ、と聞いていたようです。それで、私が試してみようという話になったみたいです。それを知った時、エホバの評判を守ることができて本当に良かったと思いました」。

18. あなたはどんなことを決意していますか。（「[役立つ2つの記事](#)」の囲みも参照。）

18 エホバに献身してバプテスマを受けるなら、どんな時にもエホバの評判を高めたいと思っていことを示せます。エホバは、あなたが直面している試練や誘惑についてよく知っています。そして、忠実を保とうとするあなたの姿を見て喜び、支えてくださいます。エホバが聖なる力を与えて頑張れるようにしてくださるということを確信してください。（ルカ 11:11-13 実際、あなたのうちどの父親が、自分の子から魚を求められて、魚ではなく蛇を渡すでしょうか。12 また、卵を求められて、サソリを渡すでしょうか。13 それで、あなたたちが罪深い人間でありながら、子供に良い贈り物を与えることを心得ているのであれば、まして天の父は、ご自分に求めている人に聖なる力を与えてくださるのです）エホバが必ず助けてくださるので、バプテスマを受けた後もイエスに従い続けることができます。

役立つ2つの記事

エホバの証人の親に育てられた若い人们は、 jw.org の「若い人は尋ねる バプテスマの後、何をしたらいい？」という記事から大切な点を学べます。パート1では、クリスチャンの習慣をきちんと守ること、パート2では、問題や誘惑があってもエホバとの約束を守ることが取り上げられています。

どのように答えますか

1. 「日々苦しみの杭を持ち上げ[る]」とはどういう意味ですか。

- ・S04 イエスに従うといつも苦しまなければいけないということではなく、幸せな生き方ができるとはいえた問題を抱えずに済むわけではないことを強調していた。迫害など大変な試練を経験することさえある。
- ・S05 家族に反対されたり、生活の中で王国を第一にするためにお金や物を犠牲にしたりしてきましたとしても、エホバは、これまで私たちがご自分のためにしてきたことを全部見ていて覚えてくださっている。またエホバが与えてくださる良いものは、私たちが犠牲にするどんなものよりもはるかに素晴らしいといえる。

- ・S06 バプテスマを受けた後も、「罪深い欲望」と闘い続ける必要があることも関係している。

2. バプテスマを受けた後も「絶えず[イエス]の後に従」うために、どんなことができますか。

- ・S07 誘惑に遭っても間違った欲求を満たそうかどうかと迷わないために、エホバを喜ばせ、忠実に仕え続けることを心に決めている必要がある。「私は……忠誠を貫く！」と言ったヨブと同じ決意を保つ。

- ・S11 私たちが自分の状況でできる限りのことをして、精いっぱいエホバに仕え続ける

- ・S12 熱意が冷めているように感じたり、意欲が湧かない時にも、自分の務めを果たそうと心に決めていたパウロに倣う。（意欲が湧かないでもできる奉仕を続ける）

- ・S14-16 定期的に自分自身を調べ、祈りや聖書の通読や研究、集会への出席、宣教への参加などの習慣を時々見直してみる。改善点が見つかったら、そのことについて祈り、エホバに従いたいという気持ちを強められるよう、できることを行う。

3. 献身した時の祈りについてじっくり考えることは、エホバに仕え続ける上でどのように助けになりますか。

- ・S08 献身した時にエホバに捧げた祈りを思い返し、間違った欲望が膨らんでからではなく、最初からきっぱり退けるようにする。

- ・S09 エホバに喜ばれることをしようと決意していたイエスの手本についてじっくり考えろ。集会の出席が難しくなるような仕事を受入れるなどエホバを悲しませるようなことは、どんなことでもきっぱり退ける。

- ・S10 試練や誘惑に遭う時、それは「絶えず[イエス]の後に従い」たいと思っていることを証明するチャンスだと考える。エホバは頑張る私たちのことを必ず助けてくださることも忘れない